

一般社団法人日本疫学会 第4回定時社員総会 議事録

日 時	2020(令和2)年 2月 21日 (金) 17:00-18:00
場 所	京都大学百周年時計台記念館 1階 大ホール(京都府左京区吉田本町 36)
社員総数	197名
出席社員数	185名(内 委任状提出者:73名)
出席理事	(順不同、敬称略) 祖父江友孝(議長)、井上真奈美、岡村智教、尾島俊之、小橋元、曾根博仁、玉腰暁子、中山健夫、松尾恵太郎、三浦克之、安田誠史、若井建志、栗山進一、近藤克則、井上茂、本庄かおり、金子聰、郡山千早、片野田耕太、田中純子
出席監事	西信雄、横山徹爾

祖父江議長より、代議員 197 名のうち、出席代議員 112 名、委任状提出代議員 73 名で、過半数に達しており本社員総会が成立したことが報告された。また、議事録署名人として、本庄かおり先生と松尾恵太郎先生が承認された。

1. 2019 年度事業について、喜多村事務局長から下記の報告があった。

1) 学術総会の開催に関する事業 (定款第 2 条 1 項)

- ・ 第 29 回日本疫学会学術総会、第 26 回 JEA 疫学セミナー
2019 年 1 月 30 日～2 月 1 日 東京 (津金昌一郎 学会長)
学術総会 940 名参加、JEA 疫学セミナー 267 名参加

2) 学会誌発行に関する事業 (定款第 2 条 2 項)

- ・ 会誌 Journal of Epidemiology Vol. 28 (12) , Vol. 29(1)～ (11) の刊行
- ・ アクセプト版早期公開の定常化

3) 情報の収集及び提供に関する事業 (定款第 2 条 3 項)

- ・ ニュースレター 第 53 号、第 54 号の刊行
- ・ ホームページ (日・英) およびメルマガ (疫学会通信等) による情報提供
- ・ 過去の学術総会の講演集を PDF 化して公開
- ・ メディア連携、疫学リテラシーの普及促進についての検討
- ・ 疫学リソース利用促進についての諸課題の検討

4) 人材の教育、研修に関する事業 (定款第 2 条 4 項)

- ・ 第 9 回疫学サマーセミナー (8/24 85 名参加、内 20 名新規入会)

- 5) 支援、交流に関する事業（定款第2条5項）
- ・疫学の未来を語る若手の会（若手の会の桑原恵介世話人代表幹事より報告があった。）
 - 第24回疫学の未来を語る若手の集い（1/30、約90名参加）
 - 第5回疫学若手の会合宿@軽井沢（11/16-17、57名参加）
 - ・第30回学術総会トラベルグラント選考（3名）
 - ・共催・シンポジウム、教育講演、連携企画
 - 日本DOHaD学会（1/29-30）
 - 日本産業衛生学会（5/23）
 - 日本動脈硬化学会（7/12）
 - 日本体力医学会（9/20）
 - 日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会（10/26）
 - ・国際疫学会（IEA）との連携
 - ・関連団体との連携（日本医学会、日本医学会連合、禁煙推進学術ネットワーク、日本人類遺伝学会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会、社会医学系専門医協会等）
- 6) 資格の認定に関する事業（定款第2条6項）
- ・疫学専門家認定制度の発足
 - 経過措置により上級疫学専門家・疫学専門家の同時申請受付、審査、合格発表（11/15）
 - 疫学専門家の申請受付（11/1-）、審査開始、筆記試験の準備
- 7) 表彰に関する事業（定款2条7項）
- 日本疫学会功労賞受賞者（敬称略）
- 津金 昌一郎（国立がん研究センター社会と健康研究センター）
- 日本疫学会奨励賞受賞者（五十音順、敬称略）
- 奥村 泰之（東京都医学総合研究所）
- 小原 拓（東北大学 東北メディカル・メガバンク機構）
- 西浦 博（北海道大学大学院医学研究院）
- 村山 洋史（東京大学高齢社会総合研究機構）
- 目時 弘仁（東北医科薬科大学）
- 優秀査読者賞受賞者（五十音順、敬称略）
- 久保田 康彦（大阪がん循環器病予防センター）
- 藤吉 朗（和歌山県立医科大学）
- 和田 恵子（岐阜大学大学院）
- Paper of the Year（敬称略）
- 田中 宏和（エラスムス大学医療センター）
- 8) その他の関連する事業（定款第2条8項）

- ・多様性（ダイバーシティ）促進のため、会員登録票の改訂、会員情報の分析
- 9) その他
- ・代議員・選出理事・監事・理事長選挙の実施
 - ・役員などのCOI自己申告書の収集・管理
 - ・各種規程整備
 - ・名誉会員の推薦
 - 古野 純典
 - 佐々木 隆一郎
 - 三浦 宜彦
 - ・会議等に関する事項
 - 第3回定時社員総会@国立がん研究センター（1/31）
 - 第1回理事会@国立がん研究センター（1/30）
 - 第2回理事会@大阪大学東京ブランチ（4/27）
 - 第3回理事会@高知会館（10/25）
2. 2019年度決算書案について、喜多村事務局長より、貸借対照表および正味財産増減計算書に基づき、下記の報告があった。
- 2019年度の資産合計は、54,490,552円、負債合計は、2,528,485円である。また、指定正味財産と一般正味財産を合わせた正味財産合計は51,962,067円で、負債及び正味財産合計は、54,490,552円であった。
- 一般正味財産増減の部における経常増減の部について、2019年度の経常収益は、受取会費19,408,160円、事業収益27,537,870円、受取補助金等4,060,378円等があり、経常収益計51,007,542円である。
- 経常費用は、事業費25,945,011円、委員会活動1,137,293円、学会事務局9,312,972円等があり、経常費用計41,397,994円で、当期経常増減額は9,609,548円であった。経常外増減の部については、一般正味財産期末残高が50,303,027円である。
- 指定正味財産増減の部において、日本学術振興会からの受取補助金等3,900,008円と一般正味財産への振替額マイナス3,560,378円により、指定正味財産期末残高は1,659,040円となり、正味財産期末残高は、51,962,067円で、先ほどの貸借対照表の正味財産合計と一致する。なお、第29回学術総会の収益は16,344,020円、費用は12,859,078円で、差額の約348万円と準備金残金150万とあわせて約498万円は、国際化基金に組み入れた。
3. 2019年度事業報告及びその附属明細書、理事の職務の執行、計算書類及びその附属明細書について、西信雄監事より監査報告があり、2019年度決算書は承認された。

4. 2020年度事業計画について、喜多村事務局長より下記の報告があった。

- 1) 第30回日本疫学会学術総会、第27回JEA疫学セミナーの開催
- 2) 会誌 Journal of Epidemiology Vol.29(12), Vol.30(1)-(11)の刊行
- 3) ニュースレター第55、56号の刊行、ホームページ(日・英)、疫学会通信、メルマガによる情報提供、メディア連携・疫学リテラシー普及促進についての検討、疫学リソース利用促進についての諸課題の検討
- 4) 第1回プレセミナー、第10回疫学サマーセミナー等の開催
- 5) 疫学の未来を語る若手の会集い等の開催、トラベルグラントの募集・選考、関連団体との連携、国際疫学会との連携強化(若手会員向け/IEA-WP会員向け国際疫学会総会〈WCE2020〉Travel Awardの募集・選考)※第30回学術総会で開催予定だったIEA-WPシンポジウムは中止
- 6) 上級疫学専門家・疫学専門家の認定(2/22疫学専門家認定筆記試験実施予定)、社会医学系専門医協会の研修
- 7) 功労賞、奨励賞、優秀査読者賞、優秀論文賞の選考
- 8) 多様性(ダイバーシティー)促進についての検討
- 9) 役員などのCOI自己申告書の収集・管理
- 11) 各種規程の整備
- 12) 名誉会員の推薦
- 13) 社員総会・理事会の開催

以上の事業計画については、理事会で承認された。

5. 2020年度予算書について、喜多村事務局長より下記の報告があった。

事業活動収入については、会費支払い義務のある普通会员1,850人、代議員195人として、会費収入1,894万円が見込まれ、事業収入として上級疫学専門家の申請・登録料として400万円を見込んでいる。また、国際化推進費として支出するために、国際化基金から200万円を組み入れる。日本学術振興会からの補助金収入等を合わせて、事業活動収入計を49,542,000円として計上した。

事業活動支出については、事業費支出として、会誌発行費371万円、JE編集委員会費996万円、総会準備費150万円、疫学の未来を語る若手の会10万円、学術総会1,544万円、疫学専門家認定の費用として330万円を計上している。

賛助会費では、日本医学会年会費14万円、禁煙推進学術ネットワーク連絡協議会に10万円、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会に2万円を計上した。

委員会活動では、海外からの学術総会参加者に対するトラベルグラント、若手会員と国際疫学会太平洋地区会員向けトラベルアワード等の国際化推進費として200万円、疫学サマーセミナー補助費27万円、ニュースレター作成費24万円、奨励賞・功労賞12万円、委員会開催費等30万円を計上した。

理事会では、会議費7万円、交通費55万円を計上している。

学会事務局では、法定福利費153万円、人件費736万円、業務委託費62万円、会計監査費39万円を計上した。

その他、管理費228万円、都民税7万円、2019年度から消費税課税事業者となったため消費税65万円を計上し、事業活動支出計50,115,000円が見込まれ、事業活動収支差額はマイナス573,000円となる。

以上の予算書については、理事会で承認された。

6. 新名誉会員について、祖父江議長より、理事会で推薦された新名誉会員候補が紹介され、下記のとおり承認された。

新名誉会員（敬称略）

古野 純典

佐々木 隆一郎

三浦 宜彦

7. 役員人事について、祖父江議長より、昨年実施した選挙で選出された理事・監事候補、指名理事候補が紹介され、下記のとおり承認された。

【任期：2022年に開催の社員総会まで】（順不同、敬称略）

◆選出理事

祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科 社会医学講座環境医学教室

栗山 進一 東北大学 災害科学国際研究所 災害公衆衛生学分野

玉腰 暁子 北海道大学大学院医学研究院 社会医学分野公衆衛生学教室

小橋 元 獨協医科大学医学部 公衆衛生学講座

曾根 博仁 新潟大学大学院医歯学総合研究科 血液・内分泌・代謝内科

井上 茂 東京医科大学 公衆衛生学分野

井上 真奈美 国立がん研究センター社会と健康研究センター 予防研究部

岡村 智教 慶應義塾大学 医学部衛生学公衆衛生学

尾島 俊之 浜松医科大学 健康社会医学講座

若井 建志 名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学分野

本庄 かおり 大阪医科大学医学部 社会・行動科学教室

三浦 克之 滋賀医科大学 社会医学講座公衆衛生学部門
安田 誠史 高知大学医学部医療学講座 公衆衛生学
金子 聰 長崎大学熱帯医学研究所 生態疫学分野
郡山 千早 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 疫学・予防医学

◆指名理事

上原 里程 京都府立医科大学 地域保健医療疫学
片野田 耕太 国立がん研究センター がん対策情報センター
神田 秀幸 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科公衆衛生学分野
関根 道和 富山大学大学院 医学薬学研究部疫学健康政策学講座
松尾 恵太郎 愛知県がんセンター研究所 がん予防研究分野

◆監事

西 信雄 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所
横山 徹爾 国立保健医療科学院 生涯健康研究部

8. その他の役員について、祖父江議長より下記のとおり報告があった。

●第32回日本疫学会学術総会会長

近藤 克則（千葉大学）

●副理事長：玉腰暁子、三浦克之（任期：2022年に開催の社員総会まで）

●各委員会委員長、WG長（任期：2022年に開催の社員総会まで）

◆疫学リソース利用促進委員会

（委員長：岡村智教、倫理問題検討WG長：栗山進一、リンケージ基盤推進WG長：
若井建志、既存疫学研究データ資源化・共有・活用WG長：神田秀幸）

◆学会等連携推進委員会

（委員長：曾根博仁、禁煙推進学術ネットワーク連絡WG長：片野田耕太）

◆多様性（ダイバーシティー）促進委員会

（委員長：上原里程）

◆広報委員会

（委員長：金子聰、疫学リテラシー普及促進WG長：安田誠史、メディア連携WG長：
関根道和）

◆JE編集委員会

（委員長：松尾恵太郎 ※任期：別に定める）

◆国際化推進委員会

（委員長：井上真奈美）

◆疫学専門家・人材育成委員会

（委員長：尾島俊之、試験作成WG長：井上茂、資格審査WG長：小橋元、

疫学教育推進WG長：本庄かおり)

◆COI委員会／選挙規定検討委員会

(委員長：郡山千早)

◆総務委員会

(委員長：北村哲久)

◆選挙管理委員会

(委員長：北村明彦 ※任期：2021年に開催の社員総会まで)

9. 庶務事項について、喜多村事務局長より、下記のとおり報告があった。

1) 会員数(2020年1月1日現在)

名誉会員：30名、代議員：196名、普通会員：2,203名(合計：2,429名)

※普通会員のうち、2019年度入会学生会員：120名

※1年間で、会員数124名増加

2) 年会費納入状況(2020年2月10日現在)

2019年度会費の納入義務のある会員：2,279名

2019年度までの会費納入完了者：1,969名(86%)

2年以上の滞納者：61名

3) 疫学会通信(2020年1月1日現在)

登録者数：2,407名(99%) 2019年発行回数：92回(選挙関連メール含む)

10. 第31回学術総会会長の田中恵太郎先生(佐賀大学)より、あいさつがあった。

11. 最後に祖父江理事長よりあいさつがあり、閉会となった。

以上